

船の使用を継続する場合に考えられる事業実施方法の比較

	クルーズ船（日本船社）のフルチャーター	商業クルーズの利用	フェリー（非定期船）のフルチャーター	クルーズ船（外国船社）のフルチャーター
航路・日程		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日程や寄港地が限定される ✓ 外国船は内航のみの運航は不可（カボタージュ規制） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外洋への航海は困難か 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外国船は内航のみの運航は不可（カボタージュ規制）
研修設備（会議室・ホール）		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用可能な時間帯等の制限がある 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研修に使用できる設備が限定的 	
密室性		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一般客と混乗 		
費用	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年2事業の実施は困難 			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 回航料が必要な可能性 ✓ 年2事業の実施は困難
備考（実現可能性・リスク面での評価等）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用可能な船舶は限定的 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業者との制度・契約面での調整が必要 ✓ 参加人数を柔軟に設定可能 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用可能な船舶は限定的（定期船の長期傭船は困難） ✓ サービス内容（ハラル対応等）が限定的な可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用可能な船舶は限定的 ✓ 事業者との制度・契約面での調整が極めて困難な可能性 ✓ 為替等の影響を受ける可能性
上記の実施方法で、船を利用する区間・期間の一部を、航空機による移動・ホテルでの宿泊等で代替する				
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業費の抑制が期待できる ✓ 船のみでは行けなかった地域への訪問が可能となる可能性 			
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 宿泊施設や交通手段を別途手配することが必要（地域によっては受入れ能力に制限あり） ✓ 安全確保等の実施に係る負担が増大する可能性 			